# ペリネイタル・ロスのケアに関する研究

看護学研究科（母性看護・助産学）
看護学科（母性看護学）
太田（おおた） 尚子（なおこ）

● 連　絡　先　　TEL：054-202-2910　FAX：054-202-2910

キーワード　ペリネイタル・ロス，死産，新生児死亡，死別，グリーフケア，セルフヘルプ・グループ，助産教育，教育プログラム，インストラクショナルデザイン

ペリネイタル・ロスとは、流産、死産、新生児死亡など、周産期の子どもの喪失をいう。ニーズに即したケアを構築するため、体験者である女性たちとの協働による研究。また、ケア提供者である看護者への教育、セルフヘルプ・グループの運営を中心とした実践活動など、教育、実践を統合したアプローチである。

当事者の声からケア・ニーズを明らかにした質的研究は、日本助産学会20周年記念論文優秀賞受賞（2006年）。2004年9月、セルフヘルプ・グループ「天使の保護者ルカの会」（聖路加看護大学看護実践開発研究センター内）を設立し、代表を務める。

死産・新生児死亡は、年間３万件と自殺よりも多く、母親やその家族に大きな悲嘆、時にはPTSD（外傷後ストレス障害）を引き起こすなど、母親や家族の精神的健康に及ぼす重大性からみても、おざなりにできない健康問題である。しかし、日本においては、隠蔽、子どもの存在の否定などの文化的背景により、これまで、入院中や退院後の生活において、母親は大きな苦悩を背負わされてきた。一方、看護師や助産師などのケア提供者への教育は、個人の努力に任せられている部分が大きく、教育体制は貧弱であると言わざるをえない。そのため看護者は、ケアに関する知識が十分でなく、教育・訓練の場も乏しいことから、母親を避ける、無意識に母親を傷つける状況が存在していた。以上のことから、体験者のニーズに即したケアの構築、看護者の教育などの課題に対して、以下の側面から研究を行っている。

１．ペリネイタル・ロスのグリーフケアの構築
　１）入院中のグリーフケア
　＊ケア・ニーズの分析
　＊聖路加看護大学ペリネイタル・ロス研究会のメンバーの一人として、ケアに必要なキット（天使キット）や冊子を開発。
　２）退院後のグリーフケア
　＊セルフヘルプ・グループ「天使の保護者ルカの会」の設立と運営

２．看護者への教育
　＊看護者の教育ニーズの分析
　＊インストラクショナルデザインを用いた看護教育プログラムの開発と評価

ペリネイタル・ロスに対するグリーフケアは、欧米においては1980年代から取り組まれてきた。しかしながら日本においては、ケア構築の途上にあり、ケアのガイドラインも存在していない。一方、ケア提供者向けの系統的な教育プログラムも、これまで、日本には存在していなかった。ケア内容を構築し、看護者の教育プログラムを開発することで、我が国のペリネイタル・ロスのケアを全国に普及していきたいと考えている。

- 「母親のケア・ニーズに関する研究」新聞掲載（毎日新聞,2006.12.28）
- 「天使の保護者ルカの会」新聞掲載（朝日新聞,2004.9.24、2004.10.3、2008.11.2）（毎日新聞,2007.1.24）（日本経済新聞,2006.6.28）
- 「ケアに必要なキットと冊子の開発（共同研究）」新聞掲載（朝日新聞,2008.11.21）

＜天使キット＞　亡くなった赤ちゃんとの思い出づくりのために使うボックス。市販では購入できない小さな赤ちゃんの着物やお布団、小冊子がセットになっている。ボックスには、写真、足型・手形、髪の毛、爪などの赤ちゃんの遺品を取るキットやメッセージカード、友人に知らせるときに使えるカード、以前に赤ちゃんを亡くした母親が手づくりしたぬいぐるみなどが入っている。